

■（70）あらためて現場に戻る大切さ

東日本大震災の被災者のいまの声を伝える連載「いま伝えたい 千人の声」を朝日新聞で続けている。震災1年を前に、東北の被災3県で、住まいや勤め先を失った1000人の被災者の言葉を紹介する企画記事だ。被災地に常駐している記者に加え、50人を超える記者が全国から集まり、今も仮設住宅などを回りながら、記事を書き続けている。

大きな災害や事故、事件の記事は、当初の現場の被害者の話から、時間がたつにつれて、行政機関や議会など、支援の仕組みを作る組織の話題に移りがちだ。復興に向けて重要なので、しょうがない面もある。だが、やはり忘れてならないのは、やはり、被災者が何を求めているのか、だ。刑事ではないが、記者も常に現場に立ち戻らなければならない。

「いま伝えたい」は名前と言葉を伝える短い記事で、震災直後から続く長期連載のコーナーだ。3.11に向けて今週から、新聞1ページを使う大型版に変身している。同じ被災者でも、言葉に差が生まれているのがわかる。前向きになろうとしている人、あきらめのような言葉を発する人……。あらためて読む被災者の言葉は、胸にズンとくる。(山)